

アクティブ・ラーニング ツアー 実践事例



令和6年度に各学校が実践したアクティブ・ラーニングツアーの詳細については、以下のフォルダに入っています。事前打合せ用紙を作成する際に、参考にしてください。

- ① POTETO ▶ 共有フォルダ ▶ R7 博学連携委員会 ▶ 令和6年度 実践事例
- ② WE LOVE とよたまなびリンク ▶ 博物館学習 アクティブ・ラーニングツアー

1 単元・題材名 「したこと（見たこと）をおうちの人に伝えよう

- 博物館でしたこと（見たこと）についてわかりやすく書く -

2 ねらい

- ・博物館に行って、実際に体験して感じたり考えたりしたことを、おうちの人に伝える文章に書き表す。（※「見たこと」について書いてもよい。）

3 博物館のサポートと連携

- ・児童の疑問や質問に答える。

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、むかしの家、とよはくアクアリウムなど
- ③ 学習活動（例）

時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 進行 ・ 移動指示	・ 注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：屋内展示で見学や体験をしよう！（展示室） ・ 展示室を見学しながら、したことや見たことを書き込めるワークシートを用意しておく。	・ 児童の監督 ・ 課題設定 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 活動の補助
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動 B：屋外展示で見学や体験をしよう！（むかしの家、観察池など） ・ 屋外展示を見学しながら、したことや見たことを書き込めるワークシートを用意しておく。	・ 児童の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 活動の補助
	昼食		
13:00 13:50	■ 活動 C：実際に体験したことを、おうちの人に伝える文章を書こう。（セミナールーム） ・ 1年「こんな こと したよ」を参考にワークシートを作成し、そこに書き込めるようにする。	・ 児童の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 活動の補助
	移動・休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答

④ 留意点・備考

- ・ 事前学習として、博物館で体験したいことを決めておく。
- ・ 「したこと」について書くときは、教科書教材1年「こんな こと したよ」を事前に学習しておくとうい。
- ・ 「見たこと」についての学習活動も可能。その場合は、事前学習として博物館で見たいものを決めておく。
- ・ 「見たこと」について書くときは、教科書教材1年「えにつきを かこう」を事前に学習しておくとうい。
- ・ 博物館（屋内、屋外とも）では、学習用タブレットを使用することが可能。

1 単元名 「いきものとなかよし きせつとなかよし -自然と触れ合おう-

2 ねらい

- ・森や池にいる虫を捕まえて体のつくりや動く様子を観察し、虫の不思議に気付くことができる。
- ・身近な自然に五感を使って触れ、季節の変化を感じるとともに、地域の自然に愛着をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・観察の道具の準備（昆虫拡大観察ケース、虫めがねなど）
- ・生き物探しのポイントの説明



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、観察池、どんぐりの森など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：自然を探して触れ合おう。 （観察池、どんぐりの森）	・ 進行 ・ 安全管理	・ 野外での安全確認 ・ 身近な生き物の種類や季節の草花の見分け方の図示など
10:50	・ 5つのパワー（目・耳・鼻・手・心）を使って季節を楽しむことを確認する。 ・ 虫や植物などの自然と触れ合う。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：展示室で豊田の自然を調べよう。 （常設展示室、とよはくアクアリウム）	・ 進行 ・ 課題設定	・ 質疑応答
11:50	・ 展示室のはく製や標本、館内で飼育している生き物を観察する。		
	昼食		
13:00	■ 活動 C：見つけた自然を紹介しよう。 （セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
13:50	・ 見つけた植物、生き物を観察し、すごいところや気になるところをまとめる。 ・ 虫の動きなどを動作化する。 ・ 気になるところを学芸員に質問する。		
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 観察池は地域の自然を再現しているのので、豊田市の身近な生き物に触れることができる。
- ・ 生活科 単元「いきもの はっけん②」で、さらに詳しい生き物の体を見る活動を行うことができる。
- ・ 質疑応答では、自分の飼っている生き物や興味のある生き物に関することも可能。
- ・ 学習用タブレットを使って、生き物の様子をまとめることも可能（発表ノートなど）。

1 単元名 「ふゆとなかよし - 博物館で昔あそびを体験しよう -」

2 ねらい

- ・昔遊びを知りたい、上手になりたいという思いをふくらませ、願いに向かって遊びを表現したり、みんなで楽しく遊んだりすることができる。

3 博物館のサポートと連携

- ・昔遊びの仕方を教える
- ・昔遊びに必要な道具の貸出

4 学習活動

- ① 時間 活動 A、B、C：40分 活動 D：50分
- ② 場所 むかしの家、むかしの家の庭など
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：昔遊びに挑戦してみよう① （むかしの家）	・ 児童への支援	・ 昔遊びの補助
10:40	けん玉、おはじき、あやとり、お手玉など		・ 途中で児童同士を競わせたり、
10:50	■ 活動 B：昔遊びに挑戦してみよう② （むかしの家の庭）	・ 児童への支援	上手な児童を紹介したりする。
11:30	缶けり、石けり、風車、こま、など		
	移動・休憩		
11:40	■ 活動 C：昔遊びをして感じたことをまとめよう。（セミナールーム）	・ 進行	・ 活動の支援
12:20	・ 昔遊びをして気付いたことをワークシートなどにまとめ、共有する。		
	昼食		
13:00	■ 活動 D：展示室で探究しよう。（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示。
13:50	・ 展示室で探究課題に取り組む。	・ 課題設定 ・ 時間調整	・ 適宜助言、質疑応答
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 屋内で遊ぶ人と屋外で遊ぶ人を途中で入れ替える。
- ・ 観察池、どんぐりの森周辺での観察などと組み合わせて実施することも可能。



1 単元・題材名 「かさこじぞう -物語に出てくる^{みの}蓑や笠を着たり触れたりしよう-

2 ねらい

- ・「かさこじぞう」を読み、昔話特有の表現に着目して、今と昔の違いについておもしろかったところを伝え合う。

3 博物館のサポートと連携

- ・物語に出てくる^{みの}蓑や笠などを実際に着たり、触れたりする体験の支援
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）や藤岡地区の旧山内家住宅を見学して、囲炉裏や土間、座敷などの古民家のつくりから、昔のくらしや物語の世界を体感する支援

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、むかしの家など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■活動A：古民家のつくりから、昔のくらしを体験する。（むかしの家） ・囲炉裏や土間、座敷など今の家との違いを見つける。 ・ ^{みの} 蓑や笠などを実際に身に着ける。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・むかしの家や道具に関する説明
	移動・休憩		
11:00 11:50	■活動B：昔の道具や、おじぞうさんにかかわる文化や歴史を調べる。（展示室、セミナールーム） ・豊田市内のおじぞうさんの写真から、どんなところにあるのか探る。 ・おじぞうさんをまつっている方の話を聞く。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・文化や歴史に関する説明
	昼食		
13:00 13:50	■活動C：物語と博物館で学習したことを関連させながら文章にまとめる。（セミナールーム） ・ワークシートや学習用タブレットでまとめ、共有する。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
	移動・休憩		
14:00 14:15	■終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・「かさこじぞう」を読んで、物語について想像をふくらませる。
- ・事前学習として、学習用タブレットで江戸時代の人々の生活についての映像を見て、当時のくらしについてのイメージをもっておく。



1 単元・題材名 「生きものはっけん -カイコの一生から「生命の尊さ」を考えよう-」

2 ねらい

- ・市内各地で飼育されていたカイコの育て方を知り、実際に育てることで生命の尊さを学ぶ。
- ・カイコが生まれてから一生を終えるまでを学び、人間がその命をいただいて生糸（絹糸）を作り生活してきた歴史があることを知る。

3 博物館のサポートと連携

- ・カイコの幹旋（時期による）
- ・カイコを見たり触ったりする体験の支援

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、常設展示室、体験室など
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム）	・進行	・注意事項
10:00	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	
10:00	■活動A：カイコはどのようにまゆになるまでの様子を学ぼう。（セミナールーム）	・進行	・絹製品、綿製品の準備
	・豊田は養蚕・製糸の街だった。	・個への支援	・学芸員による解説
	・絹製品と綿製品を比べる	・挙手の指名	
10:50	・カイコの一生を学ぶ	・児童の監督	
	移動・休憩		
11:00	■活動B：展示室でカイコに関わる産業について調べよう！（展示室）	・児童の監督	・調べ学習の助言
11:50	・展示品やジオラマを見ながら、カイコに関わる産業について調べる。		
	昼食		
13:00	■活動C：まゆをつかった工作をしてみよう。（体験室）	・進行	・質疑応答
13:50	・まゆをつかった工作をする。		
	移動・休憩		
14:00	■終わりの会（セミナールーム）	・進行	・質疑応答
14:15	・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・評価	

④ 留意点・備考

- ・博物館の展示を見て、養蚕で栄えた挙母が、車の町になっていく様子を学ぶことができる。
- ・カイコの飼育の助言や、繭の購入などに関する支援を行うことができる。繭を購入して繭工作をつくることも可能。
- ・カイコの一生から生命の尊さを学ぶ道徳の授業にも応用できる。
- ・生活科「あきとなかよし」の単元で、綿繰り機で綿と種に分ける体験も合わせて学習可能。



1 単元・題材名 「こん虫の体の仕組みを調べよう」

2 ねらい

- ・標本を観察しながら、実際の昆虫の体の仕組みを学習する。
- ・実体験を通して、身近な自然への興味・関心を深める。

3 博物館のサポートと連携

- ・観察用標本（樹脂封入標本など）の活用
- ・学習内容に関する解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、体験室、展示室、観察池など
- ③ 学習活動（例）



時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：標本を使って昆虫の体の仕組みを調べよう。（体験室）	・ 個への支援	・ 各班への支援
10:50	・ トンボ、バッタなどの標本の観察 ・ 比較しながら観察し、特徴を調べる。	・ 拳手の指名 ・ 児童の監督	・ 博物館学習スタッフによる解説 ・ 個別に質疑応答
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：展示室で生き物を調べよう。（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
11:50	・ 展示室にある昆虫の標本や生き物のはく製を観察する。	・ 課題設定 ・ 時間調整 ・ 安全指導	・ 適宜助言、質疑応答
	昼食		
13:00	■ 活動C：観察池やどングりの森で、昆虫を探してみよう。（観察池、どングりの森）	・ 進行	・ 活動の助言
13:50	・ 屋外で昆虫を探し、観察する。	・ 時間調整	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 右の写真は樹脂標本の例である。昆虫が苦手な児童でも、手にとって体の裏側の構造を観察することができる。
- ・ 樹脂標本の種類は指定できない。
- ・ 異なる種類を観察することで、昆虫同士で共通していること、口やはねのつくりなど、種類で異なる部分を比較することができる。
- ・ 樹脂標本に対応したワークシートとあわせて貸出が可能。



1 単元・題材名 「道具とくらしのうつりかわり - 博物館で昔のくらしを体験しよう -」

2 ねらい

- ・古い道具を使う体験を通して、昔の人々のくらしの工夫や苦労を考える。
- ・現代の道具や家屋との違いを見つけ、今と昔のくらしの違いを考える。
- ・昔と今の生活道具を比べて、生活の変化について考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・むかしの家（旧平岩家住宅）で、古民家のつくりや昔のくらしについての説明と案内
- ・古い道具（民具）の使い方の説明や体験の支援



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 むかしの家、むかしの家の庭、展示室
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A: 昔の道具を調べよう（むかしの家）	・ 進行	・ むかしの家で着目する視点の提示と説明
10:50	・ 自分の家とむかしの家の違いを探そう。	・ 時間調整 ・ 安全確保	
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B: 道具を体験しよう（むかしの家の庭）	・ 進行	・ 昔の道具の使い方の説明
11:50	・ いずみ、箱膳、山かご、背負子、もっこなどを体験する。 ・ 石臼、葉研、鯉節削り器を使う。 ※雨天時は体験室などで実施	・ 時間調整 ・ 安全確保	
	昼食		
13:00	■ 活動 C: 展示室で昔の道具を調べよう（展示室）	・ 進行	・ 昔の道具の使い方の説明
13:50	・ 展示を見て、むかしの道具を探し、道具の名前や使い方を調べる。	・ 時間調整 ・ 安全確保	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 各地域の資料館で民具の展示を見学しながら、古い道具の体験学習を実施することもできる。
- ・ 昔の消防に使った道具の学習も可能（教材貸出も可）。

むかしの家（旧平岩家住宅）の概要

江戸時代に松平地区（豊田市豊松町）に建てられた古民家を博物館に移築したものの。



1 単元・題材名 「ごんぎつね -物語に出てくる「びく」「はりきりあみ」「火縄銃」を体験しよう-

2 ねらい

- ・「ごんぎつね」に出てくる道具を体験することで、作品への理解を深め、想像をふくらませる。

3 博物館のサポートと連携

- ・物語に出てくる「びく」「はりきりあみ」「火縄銃」などの使用
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）や藤岡地区の旧山内家住宅を見学して、囲炉裏や土間、座敷などの古民家のつくりから、昔のくらしや物語の世界を体感

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、むかしの家、展示室
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00			
10:00	■活動A：「びく」「はりきりあみ」を体験してみよう（セミナールーム） ・道具を体験して、はりきりあみが使われた場面の兵十の思いを考える。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・びくやはりきりあみなどの道具に関する説明
10:50			
	移動・休憩		
11:00	■活動B：むかしの家で、『ごんぎつね』の読みを深めよう。（むかしの家） ・囲炉裏や土間など今の家との違いを見つけたり、火縄銃を持ったりする。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・むかしの家や火縄銃などの道具に関する説明
11:50			
	昼食		
13:00	■活動C：展示室で、物語に関連するものを探そう！（展示室） ・物語に出てくる生き物や同じ時代のものなどを調べ、まとめる。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
13:50			
	移動・休憩		
14:00	■終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答
14:15			

④ 留意点・備考

- ・「ごんぎつね」を読んで、物語について想像をふくらませる。
- ・事前学習で、タブレットで江戸から明治時代の人々の生活についての映像を見て、当時のくらしについてのイメージをもっておくとよい。
- ・「火縄銃」の学習も可能。



1 単元・題材名 「一つの花 -生活用品などから戦時中の暮らしについて知ろう-」

2 ねらい

- ・戦時中の生活の大変さについて知ることで、物語の登場人物たちの気持ちをより深く考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・戦時中の暮らしや食料事情についての説明、生活用品などの使い方の解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、展示室
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■ 活動A：豊田の戦時中の様子について調べよう。（セミナールーム） ・生活用品や食料事情から分かる当時の人々の暮らしぶりを探る。（集団疎開、学徒出陣、物資の配給など）	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・生活用品の使い方の解説 ・市内の戦争遺跡についての解説
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動B：展示室で豊田の戦争に関する情報を調べよう。（展示室） ・ジオラマや記憶の映像などを見て、豊田地域の戦争に関連する情報をあつめる。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・活動の補助
	昼食		
13:00 13:50	■ 活動C：戦争の様子を知ったことをふまえて、登場人物の心情を考えよう！（セミナールーム） ・物語の叙述と体験したことを関連させながら登場人物の心情を考え、まとめる。	・進行 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
	移動・休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・登場人物たちの気持ちにせまらせるために、実際に体験をする前と後での考えの変化を書けるようなワークシートを用意しておく。



1 題材名 「からだでかんしょう」

2 ねらい

- ・作品に表された人物のポーズや表情、作中のさまざまな形象に注目し、身体を使ってまねしながら感じたことや気付いたことを伝え合ったりすることで、作品を深く鑑賞するとともに、見方や考え方を広げる。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わう。

3 美術館のサポートと連携

- ・展示されている人物画／人物像（グスタフ・クリムトやエゴン・シーレなど）での対話型鑑賞
- ・必要に応じてコレクションを中心とした自由見学（ボランティアによるガイド付き）
- ・豊田市美術館見学案内

4 学習活動

- ① 時間 90分（美術館の活動）
- ② 場所 常設展示室（美術館）
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（美術館 講堂）	・ 移動指示	・ 美術館紹介、解説 ・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		
10:00	■ 活動 A：対象作品を鑑賞し合う。 ・ 実際に作品の前でポーズをとってみる。 ・ 身体のバランスや目線などを確かめる。 ・ 見学前の印象と実物作品を目にした時との違いに着目し、見つけたことをワークシートに書きこみ、伝え合う。	・ 児童の監督 ・ 拳手の指名 ・ 安全指導 ・ 移動指示	・ 誘導 ・ 対話型鑑賞
10:30			
10:30	■ 活動 B：人物画や人物像（グスタフ・クリムト、エゴン・シーレ、オスカー・ココシユカ、アルベルト・ジャコメッティ、岸田劉生など）を自由に鑑賞する。	・ 児童の監督 ・ 拳手の指名 ・ 安全指導 ・ 移動指示	・ 説明 ・ 個別に解説
11:00			
11:00	■ 終わりの会（美術館 講堂）	・ 拳手の指名 ・ 評価	・ 質疑応答
11:15	・ 振り返り（質問、感想など）		
	博物館へ移動・昼食		
12:20	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 移動指示	・ 美術館紹介、解説
12:30	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		・ 注意事項
12:30	■ 活動 C：博物館での活動（展示室など） ・ 博物館で活動する。	・ 児童の監督 ・ 個への支援	・ 活動の補助
14:00			
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 児童数によって班に分かれて学習をすすめる。
人数が多い場合は AM/PM で博物館と入れ替えて対応を検討。
- ・ 事前に美術館と相談して対象作品を選ぶ。可能であれば事前に学習用タブレットで画像を見て、美術館で本物を観て確かめたいという気持ちを高める。
- ・ 事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・ 事後に、ポーズや身体の部位の表現を工夫するように学びを生かす。

1 単元・題材 「自然災害からくらしを守る - 風化花こう岩から考える地域の防災 -」

2 ねらい

- ・ 昭和47年7月豪雨における小原地区・藤岡地区の被害規模と地質との関連について、風化花こう岩に着目しながら追究し、小原地区・藤岡地区で大きな被害が出た要因について理解する。
- ・ 豊田市で発生した災害の様子を調べ、豊田市における災害の特徴について理解を深める。

3 博物館のサポートと連携

- ・ 風化花こう岩の準備と解説
- ・ 展示室での解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、展示室、体験室
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：展示室で豊田の災害に関わるできごとを探そう（展示室）	・ 進行	・ 水害の原因についての説明
10:50	・ 展示室で調査活動を行い、見つけたこと、気付いたことをまとめる。	・ 時間調整 ・ 安全確保	
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：昭和47年豪雨で、豊田市北部の被害が大きい理由を考えよう（体験室）	・ 進行	・ 活動の支援
11:50	・ 風化花こう岩を観察したり触ったりして、見つけたことや気付いたことを共有する。 ・ 災害と花こう岩との関連を考える。	・ 時間調整 ・ 安全確保	
	昼食		
13:00	■ 活動C：自然災害からくらしを守るために、どのようなことが大切なのか考えよう（セミナールーム）	・ 進行	・ 河川事業の説明
13:50	・ 住んでいる地域の特徴について、災害的な視点で考える。	・ 児童生徒への支援 ・ 挙手の指名	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。

1 単元・題材名 「残したいもの 伝えたいもの -足助の町並みを歩いてみよう-」

2 ねらい

- ・旧街道沿いの古い町並みや建物の見学から、昔の人々の暮らしについて学ぶ。
- ・足助の町並み保存の説明から、地元の人々の願いに気づき、関心を高める。
- ・古い町並みが現在も残っている理由を考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・旧街道沿いの案内と見学地の説明
- ・足助の町並み保存の取組の様子の説明



4 学習活動

① 時間 130分

② 場所 足助の町並み

(足助交流館、常夜燈、マンリン小路、馬頭観音、玉田屋、道標、旧鈴木家住宅、旧田口家住宅、足助中馬館など)

③ 学習活動(例)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会(足助交流館など) ・見学、体験の注意事項	・進行 ・安全指導	・注意事項
10:00	・学習課題の確認		
10:00	■活動A:足助の町並みについて知ろう	・児童の監督	・町並みの説明
10:20	・足助の町並みの概要について学ぶ。		・備品の準備等
10:20	■活動B:足助の町並みを見学しよう1 ・旧鈴木家住宅の見学 修理・保存や大工道具の説明を聞く。	・児童の監督 ・トイレ休憩確認	・旧街道沿いに案内 ・町並み保存につい ての解説
11:00	・マンリン小路の見学 家のつくりについて調べる。	・誘導補助 ・安全指導	
11:00	■活動C:足助の町並みを見学しよう2 ・旧田口家住宅の見学 萬屋の頃の様子などについて調べる。	・児童の監督 ・トイレ休憩確認	・旧街道沿いに案内 ・古い道具を紹介
11:40	・足助中馬館の見学 足助の町並みが保存された経緯の説明を聞く。	・誘導補助 ・安全指導	・町並み保存につい ての解説
11:40	■終わりの会(足助交流館など)	・集合、整列指示	・質疑応答
11:55	・児童の感想、博物館学習スタッフの話	・評価	

④ 留意点・備考

- ・安全指導とともに、天候や子どもの体調を考慮し、見学コースや滞在時間を考える。
- ・低学年向けのスタンプラリーをはじめ各種プログラムがあり、学年に応じた対応ができる。
- ・町並みにある「常夜灯」「馬頭観音」「玉田屋」「道標」等の見学も可能。
- ・日程調整をしたうえで、三州足助屋敷の見学とセットで実施することも可能(要相談)。

1 単元・題材名 「きょう土の伝統・文化と先人たち -豊田の発展につくした人 西澤眞蔵を知ろう-」

2 ねらい

- ・地域の発展に尽くした先人(西澤眞蔵)のはたらきや、そのはたらきや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを学ぶ。
- ・先人の努力によって発展してきた地域に誇りや愛着をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・展示室や枝下用水見学のご案内と解説

4 学習活動

- ① 時間 50分(各活動)
- ② 場所 展示室、むかしの家の庭、枝下用水など
- ③ 学習活動(例)



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会(セミナールーム)	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A: 西澤眞蔵について展示室で調べよう(展示室)	・ 個への支援 ・ 挙手の指名 ・ 児童の監督	・ 展示説明と解説
	・ 枝下用水に関する展示を調べる。		
	・ ジオラマで枝下用水を探して、工事の様子を調べる。など		
10:50	・ 枝下用水に関する説明を聞く。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B: 枝下用水の工事で使った道具を体験しよう(むかしの家の庭)	・ 個への支援 ・ 児童の監督	・ 現地案内と解説
	・ 当時使っていた道具と同じような道具を実際に観察したり、持ったりして体験する。		
11:50	・ もっこで運搬を体験する。など		
	昼食		
13:00	■ 活動 C: 枝下用水を見学しよう(枝下用水)	・ 個への支援	・ 現地案内と解説
13:50	・ 博物館の近くを流れる枝下用水を見学する。	・ 児童の監督	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会(セミナールーム)	・ 挙手の指名	・ 質疑応答
14:15	・ 児童の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 雨天時は、活動 B をセミナールームなどで実施する。



1 単元・題材名 「拳母祭り – 伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思いを知ろう –」

2 ねらい

- ・古くから伝わる祭りや郷土芸能を調べることを通して、伝統や文化の継承に尽力する人々の苦労や願いについて知る。
- ・地域の伝統や文化を次世代につなぐために、地域と協働しながら自分にできることについて考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・展示物の解説や現地説明

4 学習活動

- ① 時間 40分（各活動）
- ② 場所 展示室、まちかど展示館など
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示、進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:40	■ 活動A: 展示を見て、豊田市の伝統文化について調べよう。（展示室） ・ジオラマで、拳母祭りや棒の手、農村歌舞伎を見つける。 ・学区に合わせたものを取り上げ、その実態を知る。	・個別支援	・展示物の解説 ・質疑応答
	移動・休憩		
11:00 11:40	■ 活動B: 拳母祭りを通して豊田市の伝統文化について調べよう。（まちかど展示館） ・拳母祭りの山車関係資料を見学する。 ・地元の民具資料などを見学する。 ・拳母祭りに携わる方々から、伝統や文化の継承にまつわる思いを聞く。 ・疑問点や感想を発表する。	・進行 ・拳手の指名 ・個別支援	・展示物の解説 ・伝統や文化の継承に携わる方々による説明 ・質疑応答
	移動・昼食		
13:00 13:40	■ 活動C: 学習のまとめをしよう。（セミナールーム） ・見学して分かったことや、伝統文化に携わる人々の思いについて考えたことをワークシートにまとめる。（拳母祭りと、学区の伝統行事を比較する、発展学習の資料にする）	・進行 ・個別支援 ・拳手の指名	
	休憩		
13:50 14:00	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・事前学習として、学区の伝統や文化について調べておくことで、自分たちの地域と他の地域とを比較して考えることができる。
- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。

1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -ごみ問題と循環型のまちづくり-」

2 ねらい

- ・人々の生活の変化やごみ処理の取組などを調べる活動を通して、豊田市が抱えるごみ問題について知る。
- ・循環型のまちづくりを進めていくために、市民としてできることを考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・展示物を活用した調べ学習
- ・豊田市の循環型社会についての説明

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、セミナールーム、豊田市環境学習施設「eco-T」（渡刈町）など
- ③ 学習活動（例）

時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 整列指示、進行 ・ 移動指示	・ 注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：人々が出すごみは、時代によってどのように変化しているのか？（展示室） ・ 展示品やジオラマなどをもとに調べ、ワークシートなどにまとめる。	・ 個別支援	・ 展示物の解説 ・ 質疑応答
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動 B：豊田市の取組について、市役所の方から学ぼう。（セミナールーム） ・ 循環型社会を目指した取組について知る。	・ 進行 ・ 挙手の指名 ・ 個別支援	・ 豊田市の取組についての説明 ・ 質疑応答
	昼食・休憩		
13:00 13:50	■ 活動 C：きれいな自然環境を守る循環型の豊田市にするために、自分たちができることは何か考えよう。（セミナールーム） ・ 「プラスチック製品を多く使っている今の生活を見直したい」 など	・ 進行 ・ 挙手の指名 ・ 個別支援	・ 質疑応答
	休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 集合、整列指示 ・ 評価	・ 質疑応答

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 活動 A、B、C の一部分を実施することも可能。
- ・ eco-T「エコット」を見学して、豊田市が抱えているごみ問題に対する取組を調べることも可能。ただし、前年度の申込みで、エコットの利用を明記する必要がある。



1 題材名 「西澤眞蔵が思い描いた未来とは？ -心と体で豊田を味わおう-」

2 ねらい

- ・枝下用水を完成させた西澤眞蔵について知り、希望と勇気、努力と強い意志をもって行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【内容項目】A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志（小学校）

A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志（中学校）

3 博物館のサポートと連携

- ・西澤眞蔵や枝下用水に関する資料の提供や素掘り体験の補助
- ・豊田土地改良区の職員による枝下用水についての講話と見学補助



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、枝下用水など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示、進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■活動A：『枝下用水をつくる』を読んで、枝下用水をつくった西澤眞蔵の思いを考えよう。（セミナールーム） ・眞蔵はどうして工事を始めたのだろうか？ ・眞蔵が思い描いた未来ってどんな未来だったのだろうか？	・学習課題提示 ・発言の板書 ・挙手の指名 ・個への支援	・西澤眞蔵に関する資料の紹介
	移動・休憩		
11:00 11:50	■活動B：用水づくりに関わる道具体験と枝下用水の見学をしよう。（枝下用水、むかしの家の庭） ・当時使われていた道具を体験する。 ・枝下用水に行き、現地の様子を調べ、豊田土地改良区の職員の説明を聞く。	・進行	・現地の案内 ・道具の説明
	昼食・休憩		
13:00 13:50	■活動C：展示室で、枝下用水について調べよう。（展示室） ・ジオラマで枝下用水や明治用水を観察したり、デジタルとよマップで矢作川の流路や流域の地形の様子を調べる。	・進行	・適宜解説
	昼食・休憩		
14:00 14:15	■終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・資料『枝下用水をつくる』は、博物館が提供する。
- ・事後の道徳科授業で郷土愛について深める時間をもつことで、さらに道徳的諸価値を深めていくことができる。また、総合的な学習の時間の取組と関連付けることも可能。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

1 単元・題材名 「和の文化について調べよう」

2 ねらい

- ・実際に古民家や和室の見学や昔の道具に触れる活動を通して、自分の調べたい和の文化について考える助けとする。

3 博物館のサポートと連携

- ・昔の道具に触れ、和の文化を体感する。
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）や童子苑の見学を通して、古民家のつくりや和室の特徴など「住」についての和の文化を体感する。

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、むかしの家、童子苑
- ③ 学習活動（例）

時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：古民家の様子や昔の道具について調べよう。（むかしの家） ・家のつくりを調べる。 ・着物や下駄などの道具を体験する。	・児童の監督 ・個への支援	・古民家と現代の家の違いについての説明 ・日本住宅の特徴についての説明
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動 B：美術館の茶室童子苑の和室を調べよう。（童子苑） ・畳や生け花、掛け軸など調べる。	・児童の監督 ・個への支援 ・拳手の指名	・生け花や掛け軸などの説明
	昼食		
13:00 13:50	■ 活動 C：自分の調べたい和の文化についてまとめよう！（セミナールーム） ・調べたことをもとに、調べたい和の文化についてまとめる。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
	移動・休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・事前学習で、身の回りにはどのような「和の文化」（衣・食・住）があるかを考えておく。3年生社会で学習した「昔の道具」についての学習を振り返っておいてもよい。
- ・学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。

1 単元・題材名 「流れる水のはたらき」

2 ねらい

- ・矢作川の石、砂の様子を観察する活動を通して、流れる水のはたらきの様子を考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・矢作川の石セット（上流、中流、下流の石）の準備
- ・石の観察のサポートや、各地点における石の特徴の解説



矢作川の石セット
(上流、中流、下流の石)

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 体験室、セミナールームなど
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00			
10:00	■活動A：矢作川の石、砂を観察して、流れる水のはたらきの様子を考える。（体験室） ・矢作川の石（砂）を観察し、上流・中流・下流のどの地点のものかを考える。	・進行 ・安全指導	・観察の助言 ・各地点における石の特徴の解説
10:50			
	移動・休憩		
11:00	■活動B：流れる水のはたらきと豊田の災害との関連を調べよう。（セミナールーム） ・風化花こう岩と川に堆積する砂の関連など。	・進行 ・安全指導	・適宜助言、質疑応答
11:50			
	昼食		
13:00	■活動C：展示室で豊田の自然環境を調べよう。（展示室） ・展示室で豊田の自然環境について調べる。	・進行 ・課題設定 ・時間調整	・展示を見るポイントの提示 ・適宜助言
13:50			
	移動・休憩		
14:00	■終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答
14:15			

④ 留意点・備考

- ・この他、市内の災害写真を活用して授業を行うことも可能。
- ・展示室にて、豊田の土地や矢作川の様子、川と産業とのかかわりを調べるなど、社会科の学習を発展させていくことも可能。



1 単元・題材名 「豊田の最強生物クマムシと仲間たちをさがせ！」（微生物の観察）

2 ねらい

- ・クマムシを見つける活動を通して顕微鏡の使い方を学び、小さな生物について関心をもつ。食べ物を通した生物どうしの関わりを考える（小学校5・6年）
- ・クマムシを見つける活動を通して、微生物などの体のつくりや分類、生物どうしのつり合いについて考える。（中学生）
- ・自分の身の回りに生きるクマムシが最強生物といわれる由縁を知り、今後の探究心を高める。

3 博物館のサポートと連携

- ・クマムシの生態についての概要紹介
- ・クマムシの観察方法の説明



豊田市陣中町で発見されたクマムシ2種

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 体験室、展示室、観察池など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行 ・ 移動指示	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		
10:00	■ 活動 A：クマムシを観察しよう！（体験室）	・ 児童生徒の支援	・ 観察の助言 ・ 質疑応答
10:50	・ クマムシを発見するポイントを知る。 ・ 顕微鏡（40倍）でクマムシを発見する ・ 発見したものを共有する。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：展示室で探究課題について調べよう！（展示室）	・ 進行 ・ 課題設定 ・ 時間調整	・ 展示を見るポイントの提示。 ・ 適宜助言、質疑応答
11:50	・ 展示を見ながら、探究課題について調べ、まとめる。		
	昼食		
13:00	■ 活動 C：屋外で探究課題について調べよう！（観察池など）	・ 進行 ・ 時間調整	・ 適宜助言 ・ 質疑応答
13:50	・ 博物館の屋外を探検し、探究課題について調べ、まとめる。		
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話		

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 全員が発見できるように、博物館でコケを用意する（豊田の各地域のコケ）。
- ・ 興味、関心、探究心を高めるために、自分の身近なコケを持参して発見するとよい。（児童生徒の発見をもとに、豊田のクマムシマップをつくることも可能）
- ・ クマムシだけでなく、ワムシやセンチュウなど、コケや土の中にいる生物についても学ぶことができる。
- ・ 研究次第で、人の医療や産業に大きな影響を与える可能性をもっている。
- ・ ねらいや内容については、発達段階・学年に応じて事前相談で対応できる。

1 単元・題材名 「自動車をつくる工業 -自動車産業を支える豊田の珪砂-」

2 ねらい

- ・豊田市で採掘された珪砂が、自動車のガラスの原料として広く活用されていることに着目し、豊田市の鉱業が日本の自動車産業を支えていることを理解する。
- ・自動車をつくるためには、様々な関連工場が協力をしていることを理解する。

3 博物館のサポートと連携

- ・実物資料の準備と解説（珪砂）
- ・動画資料と写真資料の準備（採掘場、精錬工場、ガラス製造工場、組み立て工場）
- ・東海窯業原料株式会社の田柵鉱山の見学

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、展示室、豊田市田柵町
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：豊田市の珪砂って、どんな砂なのかな（セミナールーム） ・ 豊田市で採れた珪砂を観察し、何に使われているのかを考える。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 珪砂に関する説明
10:50	・ 珪砂を通して鉱物の持続可能性を考える。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：豊田市の珪砂が、どのようなモノに使われているのかを調べよう（展示室等） ・ 展示や館内の様子を調べて、どのようなところに珪砂が使われているのかを調べる。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 展示を見るポイントの提示 ・ 適宜助言、質疑応答
11:50			
	昼食・移動		
13:30	■ 活動C：珪砂を採っている現場を見学しよう（田柵町） ・ 鉱山を見学し、現地の様子を調査する。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 鉱山に関する説明、解説
14:20	・ 鉱山の仕事や珪砂について説明を聞く。		
14:20	■ 終わりの会（田柵町）	・ 進行	・ 質疑応答
14:35	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・珪砂の持続可能性を考えることを通して、持続可能なものづくりや生活について学習を広げていくことも可能。
- ・東海窯業原料株式会社の田柵鉱山を訪れて、現地の様子を見学することが可能。
- ・学級数に応じて、活動をローテーションして実施する。



1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 - 豊田の生き物や植物を守ろう -」

2 ねらい

- ・ 観察池やどんぐりの森での自然観察活動を通して、豊田の豊かな自然環境に愛着をもつ。
- ・ 地域に生息する生き物や植物を守るために、できることを考え、行動することができる。

3 博物館のサポートと連携

- ・ 博物館の屋外を活用した自然観察活動
- ・ 観察池周辺の整備や維持についての説明



4 学習活動

- ① 時間 50分 (各活動)
- ② 場所 セミナールーム、観察池、どんぐりの森、展示室など
- ③ 学習活動 (例)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会 (セミナールーム)	・ 整列指示、進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A : 博物館にいる生き物や植物の観察をしよう。(観察池、どんぐりの森 など)	・ 観察や体験の補助	・ 生き物や植物の説明
10:50	・ 観察池、どんぐりの森での約束 (植物や生き物への触れ方など) を確認する。 ・ 博物館周辺の生き物や植物の観察活動をして気づいたことをまとめる。	・ 個別支援	・ 観察や体験活動の補助
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B : 豊田に生息する生き物や植物の種類について調べよう。(展示室、とよはくアクアリウム など)	・ 個別支援	・ 活動の補助
11:50	・ 活動 A で観察した生き物との違いや共通点などに注目して調べる。 ・ 気づいたことや知りたいことをまとめる。		・ 生き物や植物の説明
	昼食・休憩		
13:00	■ 活動 C : 豊田の豊かな自然環境を守るためにできることを考えよう。(セミナールーム)	・ 進行	・ 講話
13:50	・ 観察池やどんぐりの森などを整備する苦労や願いについて、博物館スタッフから話を聞く。 ・ 豊田市の生態系のつながり、種の選定基準などを知る。 ・ 地域の自然を守るために、どんなことができるかを考える。		・ 質疑応答
	休憩		
14:00	■ 終わりの会 (セミナールーム)	・ 集合、整列指示	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、観察池とどんぐりの森での活動を入れ替えながら観察を行う。
- ・ 屋外での体験は、他教科の学習プログラムを参考にして組み替えて実施することも可能。

1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -自然災害と森林保全-」

2 ねらい

- ・これまでに豊田市で発生した自然災害について調べることを通して、水害や土砂崩れによる災害が多いことを知り、災害に強いまちづくりのための持続可能な森林の保全について考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・展示物を活用した調べ学習

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、セミナールーム
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示、進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：豊田市で発生した自然災害について 展示やジオラマなどを見て調べよう。（展示室） ・昔から矢作川での水害が繰り返されていることを知る。 ・『47災害』や『東海豪雨』について説明を聞く。	・個への支援	・展示物の解説 ・質疑応答
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動 B：豊田市で発生した自然災害（水害や土砂崩れ）を防ぐための取組について、市役所の話を聞こう。（セミナールーム） ・森林の育成や間伐や川の堤防 ・動画「きっと行きたくなる豊田の森」の視聴	・進行 ・挙手の指名 ・個別支援	・豊田市の取組についての説明 ・質疑応答
	昼食・休憩		
13:00 13:50	■ 活動 C：自然災害に強い豊田市にするために、自分たちができることについて考えよう。（セミナールーム） ・「間伐材を使った製品を使おう。」 ・「森林保全や間伐の大切さを地域の人に広めよう。」 など	・進行 ・挙手の指名	・適宜助言
	休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・活動 A、B、C の一部分を実施することも可能。
- ・「WE LOVE とよた教育プログラム」に、豊田市役所の森林課と環境政策課の関連プログラムがある。

1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -水害と河川事業-」

2 ねらい

- ・これまでに豊田市で発生した水害について調べることを通して、災害に強いまちづくりをしていくために、持続可能な河川事業の在り方や自分たちにできることについて考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・展示物を活用した調べ学習
- ・風化花こう岩を活用した体験活動

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、体験室、セミナールーム
- ③ 学習活動（例）



時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 整列指示、進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：展示やジオラマを見て、豊田市の水害を調べよう。（展示室）	・ 進行	・ 水害年表の提示
10:50	・ 「豊田市では、水害が繰り返されている。」 ・ 「桜城の工事も水害の被害を受けた。」など	・ 児童生徒への支援 ・ 挙手の指名	・ 展示物の解説 ・ 質疑応答
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：豊田で水害が起きた原因について、風化花こう岩を使って考えよう。（体験室）	・ 個別支援	・ 水害の原因についての説明
11:50	・ 「花こう岩は、風化するとすごくもろい。」 ・ 「天井川になることが関係しそう。」など		・ 活動の補助
	昼食・休憩		
13:00	■ 活動 C：水害を防ぐための河川事業について説明を聞き、水害に強い豊田にするために、自分たちができることは何か考えよう。（セミナールーム）	・ 進行	・ 河川事業の説明
13:50	・ 「市民の防災意識を高めることが、水害による被害を小さくするために大事だ。」 ・ 「住んでいる地域の特徴を、災害的な視点で知ることが大事だ。」 など	・ 挙手の指名 ・ 個別支援	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 集合、整列指示	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・活動 C では、ハザードマップを使って、自分たちの地域について調べ、自分の地域を災害的な視点で捉えて特徴をつかむ活動や、災害の被害を減らすためにできることを考える活動へつなげることができる。
- ・学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。

1 単元・題材名 「童子山の歴史を解説しよう -七州城図や樹木の町並みから歴史を探る-」

2 ねらい

- ・童子山地域に残る歴史的建造物の価値に気づき、解説する文章を意欲的に書いたり効果的に編集したりしようとする。
- ・資料や取材したことを整理、分類して歴史的なものについて解説する文章を書く。

3 博物館のサポートと連携

- ・七州城図及び図説（牧野敏太郎画）等の資料や今に残る歴史的建造物をもとに、拳母城下の町並みや描かれた人物の説明



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、樹木の城下町
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行 ・移動指示	・注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：七州城図及び図説を読み解こう！ （セミナールーム） ・七州城図及び図説（牧野敏太郎画）等の資料を見て、気づいたことを話し合う。 （拳母城の周りの堀、見張り台、大手門など）	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・資料の解説
	移動・休憩		
11:10 12:00	■ 活動 B：樹木の町を歩き、拳母城下の歴史を知ろう。（樹木の城下町） ・水音寺の常夜燈…防火防災の願い ・藩校崇化館跡…武士の子のみが通えたなど ・米蔵門…かんぬきが付いた扉、外から中が見えにくいガラリ付き窓 ・家の窓にある格子…防犯技術	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・各見学場所の説明
	移動・昼食		
13:00 13:50	■ 活動 C：調べたことをもとに、解説文を書く。 （セミナールーム） ・資料や取材したことを整理、分類して解説文を書く。	・進行 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
	移動・休憩		
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・事前学習として、タブレットで江戸時代の人々の生活についての映像を見て、当時の暮らしについてのイメージをもっておく。
- ・観光地や名勝リーフレットから学び、事後にリーフレットにまとめられるようにする。
- ・七州城隅櫓の見学なども行うことができる。



1 題材名 「この筆あと、どんな人? -美術館へ行こう-」

2 ねらい

- ・人物が描かれた美術作品を見て、筆使い・絵の具の使い方の違いや表現の意図・特徴、よさを味わう。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わう。

3 美術館のサポートと連携

- ・グスタフ・クリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》での対話型鑑賞
- ・必要に応じて、エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカ、岸田劉生作品等の自由見学での解説
- ・豊田市美術館見学案内

4 学習活動

- ① 時間 90分 (美術館の活動)
- ② 場所 常設展示室 (美術館)
- ③ 学習活動 (例)



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会 (美術館 講堂) ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
10:00 10:30	■ 活動 A: グスタフ・クリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》を鑑賞し合う。 ・グスタフ・クリムトの筆づかいをまねて動作化してみる。 ・見学前の印象と実物作品を目にしたときとの違いに着目し、見つけたことをワークシートに書きこみ、伝え合う。	・児童の監督 ・挙手の指名 ・移動指示	・誘導 ・対話型鑑賞
10:30 11:00	■ 活動 B: エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカ、岸田劉生等の人物画やその他の作品を自由に鑑賞する。	・児童の監督 ・挙手の指名 ・移動指示	・説明 ・個別に解説
11:00 11:15	■ 終わりの会 (美術館 講堂) ・振り返り (質問、感想など)	・挙手の指名 ・評価	・質疑応答
	博物館へ移動・昼食		
12:20 12:30	■ 始めの会 (セミナールーム) ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
12:30 14:00	■ 活動 C: 博物館での活動 (展示室など) ・博物館で活動する。	・児童の監督 ・個への支援	・活動の補助
14:00 14:15	■ 終わりの会 (セミナールーム) ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・児童数によって、活動Aと活動Bに分かれて学習をすすめる。
- ・事前に、学習用タブレットでクリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》を鑑賞し、美術館で本物を観て確かめたいという気持ちを高める。
- ・事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・事後に、筆使いや絵の具の使い方等、意図的に表現を工夫するように学びを生かす。
- ・人数が多い場合は、AM/PMで博物館と入れ替えて対応を検討。

1 単元・題材名 「動物の分類 -動物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-」

2 ねらい

- ・はく製を見たり触れたりすることで、動物に対する興味・関心を高める。
- ・肌触りや骨格などの動物のつくりから、共通点や相違点を発見する。

3 博物館のサポートと連携

- ・観察の助言や支援
- ・動物の名前や特徴、観察時の助言

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、体験室、セミナールームなど
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：動物のつくり注目して動物のはく製を調べる。（体験室）	・ 進行	・ 観察の助言
10:50	・ 観察して気付いたことをまとめる。	・ 安全指導	・ はく製の取扱の説明
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：豊田に生息する動物を調べよう。（展示室）	・ 進行	・ 観察の助言
11:50	・ はく製などを観察し。特徴をまとめる。	・ 児童生徒の支援	
	昼食		
13:00	■ 活動 C：調べたことの種類や、考えたことの交流をしよう。（セミナールーム）	・ 進行	・ 考察の助言
13:50	・ 調べたことをもとに、さまざまな視点で動物を分類する。 ・ 様々な動物が、どの仲間に分類できるかを予想する。など	・ 児童生徒の支援	・ 質疑応答
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 貴重な動物のはく製もあるため、不用意に児童生徒が触れないよう、配慮が必要である。一方で触れることができるはく製には肌で違いを感じさせるために積極的に触れさせたい。
- ・ 中1 理科「植物の分類 -植物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-」と同時期に行ってもよい。



1 単元・題材名 「豊田の地層と化石 - 豊田の土地の変化を推測しよう -」

2 ねらい

- ・化石発掘の実体験を通して岩石や化石に対する興味・関心を高める。
- ・豊田の岩石や化石、地層を観察することで、豊田の土地の変化を推測する。

3 博物館のサポートと連携

- ・剥ぎ取り標本や化石発掘体験時の支援
- ・土地のつながりや変化の考察時の助言



4 学習活動

- ① 時間 活動 A、B：60分 活動 C：45分
- ② 場所 体験室、展示室、地層見学地（田柵町）など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：化石の発掘体験（体験室）	・ 進行	・ 観察の助言
	・ 品野層（泥岩）から化石を取り出す。	・ 安全指導	
11:00	・ 取り出した化石の種類から、地層ができた環境を推察する。		
	移動・休憩		
11:10	■ 活動 B：探究課題について調べよう！（展示室、セミナールーム）	・ 課題設定	・ 展示を見るポイントの提示
	・ 展示を見ながら、探究課題について調べ、まとめる。	・ 時間調整	・ 適宜助言、質疑応答
12:10	・ 小型剥ぎ取り標本を観察する。		
	昼食		
	バス移動		
13:30	■ 活動 C：地層見学地で本物の地層を見学しよう。（地層見学地）	・ 進行	・ 適宜助言、質疑応答
14:15	・ 地層を観察し、各層の特徴をまとめる。	・ 時間調整	
14:15	■ 終わりの会（地層見学地）	・ 進行	・ 質疑応答
14:30	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・豊田の地層とその一部である品野層（泥岩）を観察し、地層のでき方を考える。
- ・地層が長い年月をかけてできること、地層にはどのような土地の変化が生じていたのかが記録されていることを学ぶ。

<豊田の品野層（泥岩）>

豊田市田柵町や西広瀬町に分布する新第三紀（約1800万年前）の地層で、田柵町からは海産動物、西広瀬町からは陸上植物の化石が産出する。このうち田柵町については、産出する化石から50～60mほどの比較的浅い海が広がっていたことが想定される。



ウニの化石

1 単元・題材名 「豊田の地質と岩石」

2 ねらい

- ・ルーペや顕微鏡を活用し、花こう岩を構成する鉱物を観察することで、岩石や地質に対する興味・関心を高める。
- ・豊田で見つかる花こう岩の特性から、どのように環境が変化していったのかを推測する。

3 博物館のサポートと連携

- ・岩石標本、豊田の地質図の準備
- ・観察の助言

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 体験室、展示室、地層見学地（田柵町）など
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：豊田の地質を調べよう。（体験室） ・ 花こう岩を構成している鉱物を顕微鏡で観察しながら分類する。	・ 進行 ・ 児童生徒の支援	・ 観察の助言
10:50	※ 矢作川の川砂の観察でも可		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：展示室で豊田の地質を調べよう。（展示室） ・ 剥ぎ取り標本や岩石マップなどで、地質を調べる。	・ 児童生徒の支援	・ 展示を見るポイントの提示 ・ 適宜助言
11:50			
	昼食		
	バス移動		
13:30	■ 活動 C：地層見学地で本物の地層を見学しよう。（地層見学地）	・ 進行 ・ 時間調整	・ 適宜助言 ・ 質疑応答
14:20	・ 地層を観察し、各層の特徴をまとめる。		
14:20	■ 終わりの会（地層見学地）	・ 進行	・ 質疑応答
14:30	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 豊田に多く分布する火成岩（花こう岩）を観察し、豊田の地質や産業に対する関心を高める。
- ・ 岩石は鉱物等が集まってできていること、種類により組織が異なることを確認する。
- ・ 一部の地域では玄武岩や安山岩があることから、過去に豊田にも活火山があったことを推測する。



風化花こう岩



矢作川の川砂

ガーネットや石英（水晶）などの鉱物の他、黒雲母、長石などを観察することができる。

1 単元・題材名 「縄文のむらから古墳のくにへ - 豊田の古代人って、どんな暮らし? -」

2 ねらい

- ・土器、石器、住居跡から縄文時代と弥生時代の人々の工夫を考える。
- ・曽根遺跡公園の中を歩いて観察することで、古代人の生活を実感する。
- ・博物館の常設展示を使って調べることで、豊田の歴史に興味をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・曽根遺跡での竪穴住居(復元)の見学や古墳の形状についての案内と説明
- ・縄文土器や石器の解説



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、セミナールーム、曽根遺跡公園（竪穴住居、香久礼1号墳、八柱社古墳）
- ③ 学習活動（例）

時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：縄文時代と弥生時代を比べよう（セミナールーム）	・ 進行	・ 土器や石器の用途や産地の説明
10:50	・ 実物の土器や服装、石器などを体験する。 ・ 縄文どんぐりの観察をする。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：豊田の古代人の様子について、展示室で探ろう（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
11:50	・ 展示を見ながら、古代人の生活の様子に関する情報を集める。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 適宜助言、質疑応答
	昼食・移動		
13:10	■ 活動C：住居跡から古代人の「家」を探ろう（曽根遺跡公園）	・ 進行	・ 住居の工夫に関する着目する視点の提示と説明
14:00	・ 住居跡を調査して、家のつくりを考える。 ・ 家づくりの工夫について考える。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	
14:00	■ 終わりの会（曽根遺跡公園）	・ 集合、整列指示	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・ 5～10月の古墳見学は、学校で虫よけスプレーを用意する。
- ・ 個に応じて長そで、長ズボンの着用が必要になる。
- ・ 昼食場所は、公園内敷地を利用することができる（雨天時は博物館等を利用する）。

1 単元・題材名 「縄文のむらから古墳のくにへ -古墳を調査しよう-」

2 ねらい

- ・古墳を見学し、その大きさや形を教科書の古墳と比較し、その違いの理由を考える。
- ・市内に残る古墳とその分布について学習することで、古墳の立地の特徴をとらえる。

3 博物館のサポートと連携

- ・見学可能な古墳について現地説明と案内
- ・出土品（須恵器、まが玉などの副葬品）の紹介と観察サポート



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 見学可能な古墳、セミナールーム、展示室
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：古墳時代の生活の様子を調べよう（セミナールーム）	・ 進行	・ 各種資料の取り扱 いの説明
10:50	・ 縄文時代や弥生時代と比較しながら、古墳時代に使われていた道具類を体験する。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：市内の古墳について探ろう（展示室、櫻尾1号墳）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
11:50	・ 展示をもとに、市内の古墳の様子を調べる。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 適宜助言、質疑応答
	昼食・古墳へ移動		
13:25	■ 活動C：実際の古墳を調査しよう（古墳見学地）	・ 進行	・ 古墳を見るポイントの提示
14:15	・ 大きさ、形、周溝、石室の様子を調べる。 ・ 実際の古墳から、権力の大きさ、造られた時期などを推測する。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 適宜助言、質疑応答
14:15	■ 終わりの会（古墳見学地）	・ 進行	・ 質疑応答
14:30	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 事前の打合せで、見学場所、内容や時間配分などについて検討する（コースは要相談）。
- ・ 公費利用の場合、バスでの移動が必要な場所については、前年度の申込みの際に、明確にしておく必要がある。

＜豊田市内で見学ができるおもな古墳（移築、復元を含む）＞

猿投地区：池田1号墳、馬場瀬古墳群、滝1号墳

朝日丘地区：稻荷塚古墳

高橋地区：八柱社古墳、神明社古墳、香久礼1号墳

上郷地区：三味線塚古墳、車塚古墳

豊南地区：豊田大塚古墳

小原地区：宮口古墳群

藤岡地区：御内平古墳

博物館：櫻尾1号墳

1 単元・題材名 「戦国の世から天下統一へ -長篠合戦図屏風と火縄銃について調べよう-」

2 ねらい

- ・博物館所蔵の長篠合戦図屏風や地形図から読み取ったことを踏まえて、長篠の戦いの様子について理解する。
- ・時期の異なる鎧を比較し形の変化の要因を考えることで、戦い方の変化を捉える。

3 博物館のサポートと連携

- ・長篠合戦図屏風についての解説
- ・火縄銃の使用方法についての説明、体験のサポート



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、体験室、展示室
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：豊田の長篠合戦図屏風を読み解こう（セミナールーム）	・ 進行	・ 屏風の読み取りに関する助言
10:50	・ 人物や武器、鎧、地形などに着目しながら屏風を読み取る。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 質疑応答
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：鎌倉鎧と戦国鎧を比較しよう（体験室）	・ 進行	・ 鎧の特徴と戦い方に関する説明
11:50	・ 鎧の違いの理由を考える。 ・ 戦国鎧の試着や火縄銃の観察をする。	・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 質疑応答
	昼食		
13:00	■ 活動C：探究課題について調べよう（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
13:50	・ 展示を見ながら、探究課題について調べ、まとめる。	・ 課題設定 ・ 時間調整	・ 適宜助言、質疑応答
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・活動Aと活動Bを組み合わせることも可能。その際の、学習内容や進め方については事前打合せで決める。
- ・長篠合戦図屏風に描かれている寺部を領知とした武将渡辺守綱を知ること、学校で学ぶ歴史の中に豊田市の歴史が息づいていることを感じさせることができる。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。



1 単元・題材名 「戦国の世から天下統一へ - 検地帳を読み解こう -」

2 ねらい

- ・検地帳をもとに、豊臣秀吉による天下統一の政策や支配のしくみについて学ぶ。
- ・検地帳から今も残る地名などを読み取り、郷土の歴史への興味・関心を高める。

3 博物館のサポートと連携

- ・市内に残る検地帳（レプリカ）の資料紹介と解説
- ・検地帳に残る地名や人物名の読み取りのサポート
- ・検地体験で使う道具の準備



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、展示室、むかしの家の庭
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム）	・進行	・注意事項
10:00	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	
10:00	■活動A：検地帳を読み解こう（セミナールーム）	・進行	・検地帳を読み取る視点の提示、説明
10:50	・検地帳から読み取ったことを発表する。 地名、人名、田畑や年貢の量を示す数字 ・検地帳の読み方などについて説明を聞く。	・時間調整 ・安全確保	
	移動・休憩		
11:00	■活動B：検地をやってみよう（むかしの家の庭）	・活動進行の支援	・検地の手順や方法の説明
11:50	・検地で使った道具を見て方法を考える。 ・検地を再現してみる。	・時間調整 ・安全確保	・土地の面積に関する説明
	昼食		
13:00	■活動C：探究課題について調べよう（展示室）	・進行	・展示を見るポイントの提示
13:50	・展示を見ながら、探究課題について調べ、まとめる。	・課題設定 ・時間調整	・適宜助言、質疑応答
	移動・休憩		
14:00	■終わりの会（セミナールーム）	・集合、整列指示	・質疑応答
14:15	・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・評価	

④ 留意点・備考

- ・活動Aでは、4人程度のグループに分かれて、相談しながら読み解いていく。
- ・検地帳は、江戸時代のもの（秀吉よりも後の時代）であることに留意する。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

同所	同所	同所	ふつそ
中田吉畝二弐歩	上田吉畝廿四歩	上田吉畝廿四歩	上田吉畝拾八歩
宗一郎	與三	宗一郎	與三

慶長九年甲辰十一月十六日
上紙トモ四拾三枚
三州賀茂郡森村御検地帳
垣見勘兵衛
木俣半右衛門

1 単元・題材名 「人々の暮らしと身分 - 拳母の城下町を調べよう -」

2 ねらい

- ・七州城画やジオラマの観察を通して、城の立地と川の影響との関連を考える。
- ・城下町に行って調査する活動を通して、拳母城下町の特徴について理解を深め、豊田の歴史に興味をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・七州城図及び図説（牧野敏太郎画）の資料紹介と読み取りサポート
- ・市内に残る高札（五榜の掲示:第三札）の解説サポートと解説
- ・江戸時代の拳母城下に残る史跡や人々の暮らしなどの解説



4 学習活動

- ① 時間 活動 A、B：50分、活動 C：75分
- ② 場所 展示室、セミナールーム、拳母城下町
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 進行 ・ 移動指示	・ 注意事項
10:00 10:50	■ 活動 A：七州城図から人々の様子や七州城の立地を調べよう（展示室） ・ 七州城図で描かれた人を探し、どのような人なのかを調べる。 ・ 桜城から七州城に変更した理由を考える。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 七州城画の着目する視点の提示と説明 ・ 江戸時代の洪水に関する説明
	移動・休憩		
11:00 11:50	■ 活動 B：拳母にも掲げられた五榜の掲示（第三札）の内容を読み取ろう（セミナールーム） ・ 五榜の掲示の内容を読み取り、その内容を班ごとに発表する。 ・ 解説を聞き、資料に書かれている内容を確認する。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 五榜の掲示（第三札）で着目する視点の提示と説明 ・ 高札が掲げられた場所の説明
	移動・昼食		
13:00 14:15	■ 活動 C：拳母城の城下町を歩いて、当時の様子を探ろう（拳母城下町） ・ 七州城の隅櫓、拳母の町並みを歩く。（水音寺、藩校跡、米蔵門、窓にある格子） ・ 七州城や城下町の説明を聞く。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 城下町の特徴に関する着目する視点の提示と説明
14:15 14:30	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 城下町の古地図を使ったクイズラリーもある。活動時間は、60分程度。クイズの内容などは応相談。
- ・ 七州城隅櫓（写真 I）の内部見学やまちかど展示館（写真 II）の見学を希望する場合は要相談。



1 単元・題材名 「人々のくらしと身分 – 武家屋敷の長屋門を調べよう –」

2 ねらい

- ・長屋門に行って調査する活動を通して、武士の家屋の特徴について理解を深める。
- ・市内に残る文化財について学ぶことで、郷土の歴史への興味・関心を高める。

3 博物館のサポートと連携

- ・旧松本家長屋門についての現地解説
- ・江戸時代の寺部陣屋の様子や初代渡辺守綱についての説明

4 学習活動

- ① 時間 活動A、B：40分 活動C：80分
- ② 場所 旧松本家長屋門、展示室、七州城隅櫓など
- ③ 学習活動（例）



時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：寺部の武将である渡辺守綱について調べよう（セミナールーム）	・ 進行	・ 渡辺守綱に関する助言
10:40	・ 豊田の長篠合戦図屏風に描かれている渡辺守綱について学ぶ。	・ 時間調整 ・ グループ分けの指示	・ 質疑応答
	移動・休憩		
10:50	■ 活動B：江戸時代の様子について調べよう。（展示室、七州城隅櫓、むかしの家）	・ 進行	・ 七州城隅櫓やむかしの家の特徴に関する説明
11:30	・ 展示室で、江戸時代に関連するものや出来事を調べる。 ・ 七州城隅櫓やむかしの家を見学することで、当時の武士と百姓の様子を比較する。	・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 質疑応答
	昼食・移動		
13:00	■ 活動C：寺部を探検して、武家屋敷の長屋門を調べよう！（長屋門、寺部城など）	・ 進行	・ 長屋門の建物の構造に関する説明
14:20	・ 旧松本家長屋門を見学して、建築の構造や渡辺家と松本家の関係を調べる。 ・ 寺部城や随應院、守綱寺などを見学する。	・ 時間調整	・ 適宜助言、質疑応答
	移動・休憩		
14:30	■ 終わりの会（寺部八幡宮など）	・ 進行	・ 質疑応答
14:45	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

<旧松本家長屋門（市指定文化財）>

松本家は江戸時代の寺部を治めていた渡辺家の重臣で、現在の寺部町に居住し、家老職、普請奉行をつとめた家格である。旧松本家長屋門は、江戸時代に建立された武家屋敷の景観を伝える長屋門で、建築当初の外観と構造が良好に残されている。市域に残る武家屋敷長屋門は旧松本家長屋門と遊佐家長屋門（市指定文化財）の2棟のみである。



1 単元・題材名 「開国と不平等条約 - 古文書を読んでペリー来航の影響を考えよう -」

2 ねらい

- ・市内に残る古文書から、ペリー来航によるこの地域への影響を考える。
- ・古文書の内容を読み取ることで、当時のこの地域の人々の思いにせまる。

3 博物館のサポートと連携

- ・市内に残るペリー来航にかかわる古文書の資料紹介とこの地域への影響の解説
- ・足助の旧鈴木家住宅の案内と解説



4 学習活動

- ① 時間 活動A：45分 活動B：60分 活動C：40分
- ② 場所 セミナールーム、足助の町並み、旧鈴木家住宅
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 進行	
10:00 10:45	■ 活動A：松平の菅沼家文書と足助の鈴木家文書から、ペリー来航の影響を読み解こう（セミナールーム） ・ 古文書を広げて見る。 ・ 書かれている内容を班ごとに推測する。 ・ 古文書についての学芸員の解説を聞く。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 古文書で着目する視点の提示 ・ ペリー来航がこの地域に与えた影響の説明
	休憩・移動 バスでの移動中に、足助の概要について説明を聞く。（足助の歴史、重伝建の取組など）		
11:45 12:45	■ 活動B：古文書に出てきた鈴木家があった足助の町並みを歩こう（足助の町並み） ・ 町並みを見学し、説明を聞く。 常夜灯 馬頭観音 玉田屋 道標 荷の口会所跡 マンリン小路	・ 児童生徒の監督 ・ 記録写真 ・ 安全指導 ・ 誘導補助	・ 足助の町並みの案内と解説
	移動・昼食（足助交流館など）		
13:35 14:15	■ 活動C：足助の富裕な商家であった鈴木家について調べよう（旧鈴木家住宅） ・ 旧鈴木家住宅を見学し、説明を聞く。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 旧鈴木家住宅の説明
14:15 14:30	■ 終わりの会（足助交流館など） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答

④ 留意点・備考

- ・ 足助の町並みは平成23年に、愛知県で初めての国の重要伝統的建造物群保存地区（通称：重伝建）に選定された。
- ・ 旧鈴木家住宅（一部公開）の見学希望がある場合は、事前連絡をする。
- ・ 足助での現地見学ではなく、展示室を活用して江戸時代の豊田の様子学習も可能。
- ・ 足助の古地図を使ったクイズラリーもある。

<鈴木家文書>



1 単元・題材名 「近代の遺構をめぐろう -矢作川のおかげで豊田の産業が発展したって、ホント?-」

2 ねらい

- ・豊田は川の力を利用して産業を発達させてきたことを理解する。
- ・豊田の近代化に関わる遺構を調査する活動を通して、貯木場や明治用水旧頭首工の特徴について理解を深め、豊田の歴史に興味をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・見学場所における案内と解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、セミナールーム、明治用水旧頭首工、百々貯木場
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム）	・進行	・注意事項
10:00	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	
10:00	■活動A：豊田の近代化について、「川と産業との関わり」を探ろう（展示室）	・進行	・豊田の養蚕業・製糸業・トロミルに関する説明
10:50	・展示室で川と産業が関わっている場面を探す。 ・明治以降の産業の発展について調べる。 （養蚕業・製糸業・トロミルなど）	・時間調整 ・安全確保	
	移動・休憩		
11:00	■活動B：豊田の近代化について、展示室で調べたことを共有しよう（セミナールーム）	・活動進行の支援	・明治用水旧頭首工の特徴に関する着目する視点の提示と説明
11:50	・展示室で調べたことを共有する。 ・活動Cで見学する場所について考える。 《明治用水の場合》 ・明治用水をつくった理由 ・船通し閘門をつくった理由 《百々貯木場の場合》 ・矢作川の中流域に貯木場をつくった理由	・時間調整 ・安全確保	・百々貯木場の特徴に関する着目する視点の提示と説明
	昼食・移動		
13:30	■活動C：近代の遺構を見学しよう（明治用水旧頭首工、もしくは百々貯木場）	・進行	・見学する遺構の特徴や着目する視点の提示と説明
14:20	・頭首工（貯木場）の様子を観察する。 ・明治用水旧頭首工（貯木場）について説明を聞く。	・時間調整	
14:20	■終わりの会（セミナールーム）	・進行	・質疑応答
14:35	・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・評価	

④ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・現地では自動車が通る道を歩くので交通安全に気を付ける。また、坂道や草が生えている場所を歩くため、動きやすい靴を履いてくる。トイレがないためできるだけ博物館で済ませる。

1 単元・題材名 「長く続いた戦争と人々の暮らし - 現地と実物資料から考えよう -」

2 ねらい

- ・実物資料と戦争の様子を関連づけながら、戦時中の豊田の様子について理解を深める。
- ・草薙隊の関連場所に行って調査する活動や実物資料を調査する活動を通して、豊田の歴史に興味をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・戦争に関わる具体物の説明
- ・伊保原飛行場や草薙隊に関する現地見学の案内と解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 展示室、セミナールーム、体験室
伊保原飛行場跡、草薙隊の関連場所（要相談）
- ③ 学習活動（例）



時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 整列指示、進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A: 当時の手紙やポスターから当時の人々の生活を探ろう（セミナールーム）	・ 進行	・ 当時の豊田の様子に関する説明
	・ 手紙やポスターを読み取り、考えたことを共有する。	・ 時間調整	
10:50	・ 当時の生活の様子について説明を聞く。	・ 安全確保	
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B: 実物資料で豊田の戦争を調べよう（体験室）	・ 進行	・ 戦争関連の実物資料の説明
	・ 実物資料に触れる体験をする。	・ 時間調整	
11:50	・ 戦争関連のものがどのように使われたのか説明を聞く。	・ 安全確保	
	昼食		
13:00	■ 活動 C: 探究課題について調べよう（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
	・ 展示を見ながら、探究課題について調べ、まとめる。	・ 時間調整	・ 適宜助言、質疑応答
13:50			
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 集合、整列指示	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・日章旗、木銃、養兔増産奨励ポスター、戦時中の子どもの絵等は、教材貸出も可能。
- ・学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・豊田市域にあった特攻隊（草薙隊）に関連する場所に訪れることもできる（要相談）。
 - ※石碑を観察、滑走路だった場所を確認、地下壕を見学等
 - ※移動に時間30分程度を予定しておく。

1 教材名 「行動する建築家 坂 茂 -坂 茂 氏の思いとは-」

2 ねらい

- ・坂茂氏の建築に込める思いについて話し合ったり、同氏が携わった建築物を見学したりすることで、働くことや社会に奉仕することの意義について考え、社会のために貢献しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【内容項目】 C- (14) 勤労、公共の精神

3 博物館のサポートと連携

- ・坂茂氏のインタビュー動画や資料の提供、見学補助

4 学習活動

- ① 時間 事前学習 45分
博物館での学習 80分 (移動・休憩を含む)
- ② 場所 セミナールーム、博物館各所
- ③ 学習活動 (例)



事前指導 (各学校で実施)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
45分	<p>■活動 A: 坂茂さんがどのような思いで紙管を使った支援を行ったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、坂氏が「紙管」を活用した理由を確認する。 リサイクルできる→自然 大きさも変えることができる→被災者 ・坂氏は、どのような思いで紙管を使った支援を各地で行ったのか予想する。 困っている人たちを喜ばせたかった 地球環境を守るため 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行 ・挙手の指名 ・発言の板書 ・博物館見学に際しての事前指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂氏のプロフィール紹介の提供

博物館での学習

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
40分	<p>■活動 B: インタビュー動画の視聴後、博物館を散策し、建築物を実際に見たり触ったりする。(セミナールーム、博物館の各所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木がたくさん使われているね。 ・木材には豊田市産のものもあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の支援 ・進行 ・挙手の指名 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館に紙管や市内の木材が使われていることを紹介
	移動・休憩		
30分	<p>■活動 C: 坂茂さんがどのような願いを込めて豊田市博物館を設計したのか思いにせまる。(セミナールーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境や森林を守りたい。 ・みんなの喜ぶ姿が見たい。 ・今の人々だけでなく、未来の人々のため 	<ul style="list-style-type: none"> ・進行 ・挙手の指名 ・発言の板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・活動 A は事前指導として、各学校で行うことを基本とする。指導に必要な資料は博物館から提供する。博物館に関する情報はホームページからも調べられる。
- ・活動 B、活動 C に加えて、展示室見学や、その他の学習プログラムを実施することも可能。

1 単元・題材名 「美のタイムトラベル -土器の文様から当時の人々の思いを想像しよう-」

2 ねらい

- ・縄文土器に触れたり、観察したりする体験から、原始美術の造形的な特徴や美しさを感じる。
- ・縄文土器の形や文様に着目して、土器に込められた縄文人の思いについて考える。

3 博物館のサポートと連携

- ・縄文土器の準備や取り扱いの説明、土器に関する解説など
- ・展示品を見るポイントの解説など



4 学習活動

- ① 時間 50分 (各活動)
- ② 場所 セミナールーム、展示室、体験室
- ③ 学習活動 (例)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会 (セミナールーム)	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：縄文土器の文様から当時の人々の思いを想像しよう。(体験室)	・ 進行	・ 縄文土器の取り扱いの説明
	・ 縄文土器を鑑賞する。	・ 時間調整	・ 縄文土器に関する解説
	・ 当時の生活様式 (生活や道具) に注目し、土器の造形や文様について話し合う。	・ 安全確保	・ 体験の支援
	・ 土器の文様を見つけて、発表ノートに記録する。(写真と感じたこと)		
	・ タブレットで、見つけた文様と文様から感じたことを共有する。		
10:50	・ 土器の文様に込められた当時の人々の思い (装飾の意味や理由) について意見交流する。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動 B：博物館にあるいろいろな模様を探そう。(展示室)	・ 進行	・ 展示品を観るポイントを提示
	・ 展示品をみて、さまざまな模様を見つける。	・ 時間調整	
	・ 見つけた模様をタブレットで写真を撮って、感じたことを記録する。	・ 安全確保	
11:50			
	昼食		
13:00	■ 活動 C：博物館で見つけたお気に入りの模様を紹介しよう！(セミナールーム)	・ 進行	・ 昔の道具の使い方の説明
	・ タブレット等を活用しながら、見つけた模様を全員で共有する。	・ 時間調整	
13:50		・ 安全確保	
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会 (セミナールーム)	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・タブレットの発表ノートを活用することが可能。ワークシートに手描きのスケッチをして実施することも可能。
- ・鎧の模様などを取り上げて実施することも可能。
- ・学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。
- ・美術館での鑑賞と組み合わせて実施することも可能。



1 単元・題材名 「植物の特徴 -植物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-」

2 ねらい

- ・スケッチのしかたやルーペの使い方を活用し、植物に対する興味・関心を高める。
- ・花卉や葉脈、根などの植物のつくりから、共通点や相違点を発見する。

3 博物館のサポートと連携

- ・観察のしかたのサポート
- ・植物の名前や特徴、観察時の助言等

4 学習活動

- ① 時間 活動 A、C：30分 活動 B、D：50分
- ② 場所 体験室、観察池、どんぐりの森など
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：様々な植物標本の観察（体験室）	・ 生徒への支援	・ 観察の助言
	・ 複数の植物標本を観察し、花、葉、根といった各部分の違いを比較する。		
10:30	・ 植物にはどのような形態があるのかを把握する。		
	移動・休憩		
10:40	■ 活動 B：屋外散策と植物の観察（観察池、どんぐりの森など）	・ 生徒への支援	・ 観察の助言
	・ 一つはルーペを用いてスケッチする。		
11:30	・ 植物の花弁や葉脈、根に注目して、タブレットで写真を撮影する。		
	移動・休憩		
11:40	■ 活動 C：分類および意見交流（体験室）	・ 進行	・ 考察の助言
	・ 撮影した写真をもとに、さまざまな視点で植物の形態を分類する。	・ 生徒への支援	・ 質疑応答
12:10	・ 自分の学校や地区ではどのような植物が生育し、分類できるかを予想する。		
	昼食		
13:00	■ 活動 D：展示室で豊田の自然環境を調べよう。（展示室）	・ 進行	・ 展示を見るポイントの提示
13:50	・ 展示室で豊田の自然環境について調べる。	・ 課題設定	・ 適宜助言
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 季節や観察池、どんぐりの森周辺の状態によって、生育する植物は変化するため、事前にどのような植物が生育しているかを確認する。
- ・ 事前にルーペの使い方とスケッチのしかたを学んでおくことで、この場では学びを実践する場とすることができる。
- ・ 植物の名称が分からないことが予想されるため、Google レンズを活用するとよい。

1 単元・題材名 「探検！豊田ミステリーツアー – 豊田の地域の特色や歴史を学ぼう –」

2 ねらい

- ・博物館と市域にある古い町並みや建物の見学を通して、昔の人々の暮らしについて学び、当時の人々の願いや工夫について考える。
- ・郷土の歴史や地域への興味・関心を高めるために、自分たちの住む学区の歴史に関心をもつ。

3 博物館のサポートと連携

- ・豊田市域に残る史跡の紹介と資料提供
- ・史跡等の見学案内と現地での解説



七州城

喜楽亭

4 学習活動

- ① 時間 50分 (各活動)
- ② 場所 博物館、市域の史跡など
- ③ 学習活動 (例)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会 (セミナールーム)	・ 整列指示、進行 ・ 移動指示	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		
10:00	■ 活動 A : 博物館の展示室での学習課題 ・ 「豊田市の産業はどのように変化したか」	・ 課題設定 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 展示物の解説 ・ 質疑応答
10:50	「博物館の木材はどこの木か」 など		
	移動・休憩		
11:05	■ 活動 B : むかしの家や七州城隅櫓での学習課題 ・ 「むかしの家でみられる生活の知恵は何か」	・ 課題設定 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 見学の案内と現地での解説 ・ 質疑応答
11:55	「拳母城が高台にうつつてきた理由は何か」 など		
	昼食・休憩・移動		
13:00	■ 活動 C : 喜楽亭での学習課題 (※ 喜楽亭の場合) ・ 「現在の建物と違うところはどこか」	・ 課題設定 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 見学の案内と現地での解説 ・ 質疑応答
13:50	など		
14:00	■ 終わりの会 (喜楽亭)	・ 集合、整列指示 ・ 評価	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話		

④ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・博物館や七州城隅櫓に加えて、もう一か所の見学地に訪れて課題に取り組むことができる。見学候補地は右の通り。(数字) は、およその移動時間。

ただし、バスを使って移動する必要のある場所に行きたい場合は、前年度の申込の際に見学希望先を明確にしておく必要がある。

<豊田市内で見学ができるおもな場所>

博物館、七州城跡

喜楽亭 (徒歩20分)、桜城址 (徒歩20分)

【バス利用】

曾根遺跡 (10分) 寺部城跡 (15分)

遊佐家長屋門 (15分)、旧松本家長屋門 (15分)

民芸館 (20分)、明治用水日頭首工 (20分)

伊保原飛行場跡 (20分)、百々貯木場 (20分)

など

1 単元・題材名 「ミュージアム チャレンジ」

2 ねらい

- ・博物館や美術館、挙母の城下町に関連した探究課題に取り組むことを通して、豊田市の歴史や自然、文化への関心を高める。
- ・仲間と協力しながら問題を解決していく力を育む。

3 博物館のサポートと連携

- ・探究課題づくりへの協力
- ・探究課題の答えに関する解説（必要に応じて）



4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 博物館（展示室など）、美術館（展示室、屋外展示）、挙母の城下町など
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 整列指示、進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動 A：博物館で探究課題に挑戦（博物館）	・ 課題設定	・ 見学の諸注意
	・ 博物館の展示や建築などを題材にした探究課題に取り組む。	・ 時間調整	・ 活動支援
10:50	・ 答え合わせをする。	・ 安全確保	・ ヒントの提示
		・ 答え合わせ	
	移動・休憩		
11:10	■ 活動 B：美術館で探究課題に挑戦（美術館）	・ 課題設定	・ 見学の諸注意
	・ 美術館を題材にした探究課題に取り組む。	・ 時間調整	・ 活動支援
12:00	・ 答え合わせをする。	・ 安全確保	・ ヒントの提示
		・ 答え合わせ	
	昼食・休憩・移動		
13:10	■ 活動 C：挙母の城下町で探究課題に挑戦（挙母の城下町）	・ 課題設定	・ 見学の諸注意
	・ 七州城の隅櫓、挙母城下町に関する探究課題に取り組む。	・ 時間調整	・ 活動の支援
14:00	・ 答え合わせをする。	・ 安全確保	・ 助言
		・ 答え合わせ	
	移動		
14:20	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 集合、整列指示	・ 質疑応答
14:35	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 探究課題の内容、七州城隅櫓の内部見学など、博物館スタッフによる相談可。
- ・ 城下町の古地図を使った探究ラリー（活動時間 60 分程度）あり。
- ・ 挙母の城下町で活動する際の安全対策は、学校が主となって準備。

※立哨ポイントの参考情報などは、博物館から提供可。

1 教材名 「行動する建築家 坂 茂 -社会のために自分は何ができるか考えよう-」

2 ねらい

- ・博物館の設計やそれに関わる人の思いを知る活動を通して、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようという道徳的心情を育てる。

【内容項目】 C- (12) 社会参画、公共の精神

3 博物館のサポートと連携

- ・パンフレットの提供、坂茂さんのインタビュー動画の提供、見学補助、紙管の実物資料

4 学習活動

- ① 時間 50分 (各活動)
- ② 場所 セミナールーム、博物館各所
- ③ 学習活動



事前指導 (各学校で実施)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
50分	<p>■活動A: 「行動する建築家 坂茂」を読み、坂茂さんの建築に対する思いや、どのような活動をしているのかを知る。</p> <p>・坂茂さんの活動を通して、自分が社会のためにできることやしてみたいことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手の指名 ・発言の板書 ・記録写真 ・個別支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット等資料の準備、提供

博物館での学習

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
50分	<p>■活動B: 博物館の見学 (博物館の各所)</p> <p>・事前学習を振り返る。</p> <p>・博物館で使われている集成材や紙管に着目しながら見学し、坂茂さんが設計に込めた思いを考える。(美術館との比較も可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学案内、補助 ・坂茂さんについての説明
	休憩・移動		
50分	<p>■活動C: 見学を通して、博物館の建築に込められた坂茂さんの思いについて考えたことを話し合う。(セミナールーム)</p> <p>・見学や資料をもとに、環境や産業の発展に寄与しようとする坂茂さんの考えをつかむ。</p> <p>・自分が社会のために、できることやしてみたいことをグループで紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進行 ・インタビュー動画を流す ・挙手の指名 ・発言の板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の紹介 ・設計者の紹介

④ 留意点・備考

- ・活動Aは事前指導として、各学校で行うことを基本とする。指導に必要な資料は博物館から提供する。博物館に関する情報はホームページからも調べられる。
- ・活動Cの感想の記入は、坂茂さんへの手紙の作成などに変更することも可能。
- ・活動B、活動Cに加えて、展示室見学や、その他の学習プログラムを実施することも可能。

1 単元・題材名 「扇の的『平家物語』より - 鎧や武器から当時の戦の様子を探ろう -」

2 ねらい

- ・作品の背景にある時代状況を捉え、武士がどのような考えをもっていたかを与一や源平の行動と結び付けて考える。
- ・鎧（レプリカ）や当時の武器の観察を通して、武士の戦い方について学び、作品の情景や登場人物の心情を深める。

3 博物館のサポートと連携

- ・鎧（レプリカ）の着用方法やつくりについての説明、体験のサポート
- ・武士の生活や生き方についての解説
- ・武士が使っていた武器や当時の戦についての解説

4 学習活動

- ① 時間 50分（各活動）
- ② 場所 セミナールーム、展示室
- ③ 学習活動（例）



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 注意事項
10:00	・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 移動指示	
10:00	■ 活動A：鎧や武器を調べよう！（セミナールーム） ・ 鎧の着用や武器の観察を通して、その特徴を発表する。（重さ、素材、身に着けた感想） ・ 鎧や武器について学芸員の説明を聞く。（敵の武器から身を守る仕組みなど） ・ 当時の戦の資料などから実際の戦いの様子を知る。	・ 生徒の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真 ・ 挙手の指名 ・ 発言の板書	・ 鎧や武器について使い方や着用方法の説明 ・ 着用の支援
10:50	・ 源氏と平家の違いについてまとめる。		
	移動・休憩		
11:00	■ 活動B：展示室で平安時代の様子を探ろう。（展示室）	・ 児童の監督 ・ 個への支援	・ 活動の補助
11:50	・ 展示室で調べたことをまとめる。	・ 記録写真	
	移動・昼食		
13:00	■ 活動C：調べたことをもとに、扇の的を読み直そう！（セミナールーム） ・ 調べたことをもとに、扇の的を読み、課題について考えたことを交流する。	・ 進行 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 活動の補助
13:50			
	移動・休憩		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・ 進行	・ 質疑応答
14:15	・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 評価	

④ 留意点・備考

- ・ 大鎧（レプリカ）は貸出可能（貸し出しの場合は着用方法の説明を受ける）。
- ・ 大鎧の兜を順番に身に着ける間に、その他の部品を身に着けたり、感想を書いたりするようにする。
- ・ 事前に『平家物語』を読んでおき、どのような場面があったのかを確認しておく。

1 題材名 「人物を見つめて -エゴン・シーレ- 」

2 ねらい

- ・顔や体の向き、ポーズ、構図、人物・背景の色彩、線の表情、陰影のつけ方等の造形的な要素を手掛かりに、人物の内面を想像し、作品の主題やイメージを捉え、作品のよさを味わう。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わい、新しい発見や見方に出会う。

3 美術館のサポートと連携

- ・エゴン・シーレ《カール・グリウンヴァルトの像》の対話型鑑賞
- ・必要に応じて、他の作品等の自由見学での解説
- ・豊田市美術館・高橋節郎館見学案内



4 学習活動

- ① 時間 120分（美術館の活動）
- ② 場所 常設展示室（美術館）、高橋節郎館
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45 10:00	■ 始めの会（美術館 講堂） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
10:00 10:30	■ 活動 A：エゴン・シーレ《カール・グリウンヴァルトの像》の対話型鑑賞をする。 ・実物作品を観て感じたこと対話型鑑賞で見つけたことをワークシートに書き込む。	・生徒の監督 ・拳手の指名 ・移動指示	・誘導 ・対話型鑑賞
10:30 11:00	■ 活動 B：ココシュカ、クリムト、岸田劉生等の人物画やその他の作品を自由に鑑賞する。	・生徒の監督 ・拳手の指名 ・移動指示	・説明 ・個別に解説
11:00 11:30	■ 活動 C：高橋節郎館で漆作品を鑑賞する。館外で、建築物や彫刻等の鑑賞をする。	・生徒の監督 ・拳手の指名 ・移動指示	・説明 ・個別に解説
11:30 11:45	■ 終わりの会（美術館 講堂） ・振り返り（質問、感想など）	・拳手の指名 ・評価	・質疑応答
	博物館へ移動・昼食		
12:40 12:50	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
12:50 14:00	■ 活動 D：博物館での活動（展示室など） ・博物館で活動する。	・児童の監督 ・個への支援	・活動の補助
14:00 14:15	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

④ 留意点・備考

- ・生徒数によって、活動Aと活動B、活動Cに分かれて学習を進める。
- ・事前に、アートカードや学習用タブレット等で様々な人物画を観て、人物を描くことについての意味を考える。事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・事後、人物を描く題材に生かす。
- ・可能であれば、館内・施設内の作品をタブレットで撮影後、持ち寄って鑑賞会をする。

1 題材名 「日本の美意識 - 高橋節郎館・茶室で美意識を学ぶ -」

2 ねらい

- ・漆工芸の魅力や茶文化に触れ、日本の風土で育まれた美意識や自然の形体・材料を生かした美術について感じたことを広げたり深めたりする。

3 美術館のサポートと連携

- ・高橋節郎館見学案内と説明
- ・茶室童子苑の見学と説明（利用案内）
- ・豊田市美術館見学案内



4 学習活動

- ① 時間 135分（美術館の活動）
- ② 場所 高橋節郎館、常設展示室（美術館）、屋外展示（美術館）、茶室童子苑
- ③ 学習活動（例）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
9:45	■ 始めの会（美術館 講堂）	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
10:00	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		
10:00	■ 活動 A：高橋節郎館の見学	・生徒の監督 ・拳手の指名 ・移動指示	・誘導 ・対話型鑑賞 ・個別に開設
10:30	・郷土の自然美を描いた高橋節郎の作品を活用して対話型鑑賞を行い、作品をじっくり味わう。		
10:30	■ 活動 B：豊田市美術館内常設展の見学	・生徒の監督 ・移動指示	・説明 ・個別に解説
11:10	・自由鑑賞		
11:10	■ 活動 C：茶室童子苑での活動	・生徒の監督 ・移動指示	・個別に解説 （・お茶出し）
11:40	・見学 【抹茶体験（茶菓子付）も可能】 ・陶磁器、菓子などの茶文化に触れ、日本の美意識を味わう。		
11:40	■ 活動 D：豊田市美術館屋外展示・講堂	・生徒の監督 ・移動指示	・解説
11:50	・自由鑑賞、ワークシートの整理		
11:50	■ 終わりの会（美術館 講堂）	・拳手の指名 ・評価	・質疑応答
12:00	・振り返り（質問、感想など）		
	博物館へ移動・昼食		
13:00	■ 始めの会（セミナールーム）	・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
13:10	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等		
13:10	■ 活動 E：博物館での活動（展示室など）	・児童の監督 ・個への支援	・活動の補助
14:00	・博物館で活動する。		
14:00	■ 終わりの会（セミナールーム）	・進行 ・評価	・質疑応答
14:15	・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話		

④ 留意点・備考

- ・抹茶体験 有料450円/1人 要予約
- ・事前に題材との出会いとして、着物や風呂敷、お椀・箸・盆・食器等、自然物の形体を装飾に取り入れたり、風土に適した材料を生かしたりして日本人が生活に取り入れてきた美と出合わせる。また、高橋節郎の制作風景のビデオ鑑賞を行い、漆工芸の制作過程を知り、高橋節郎館見学への関心意欲を高める。
- ・事後、漆工芸制作や焼き物制作、着物の柄デザイン、和菓子作り等の題材につなげ、日本の美に対する考えを広げたり深めたりする。
- ・事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。

1 単元・題材名 「身近な生物の観察 – 単細胞生物と多細胞生物を観察しよう –」

2 ねらい

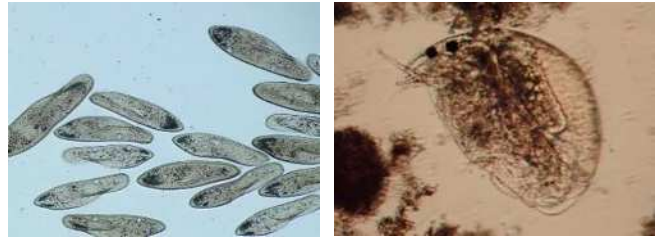
- ・観察池周辺に生息する微小な生物（単細胞生物や多細胞生物）を採集・観察することで、興味・関心を高める。
- ・身近に生息する微小な生物の種類や特徴について学ぶ。

3 博物館のサポートと連携

- ・観察池周辺での微小な生物の採集についての説明
- ・微小な生物の種類や特徴についての助言

4 学習活動

- ① 時間 活動A：30分 活動B、C：50分
- ② 場所 観察池周辺、体験室など
- ③ 学習活動（例）



時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
9:45	■始めの会（セミナールーム）	・進行	・注意事項
10:00	・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・移動指示	
10:00	■活動A：観察池周辺で微小な生物を採集する。（観察池、どんぐりの森）	・生徒の監督	・採集活動での支援
10:30			・質疑応答
	移動・休憩		
10:40	■活動B：採集した生物を顕微鏡で観察する。（体験室）	・進行	・観察の助言
	・単細胞生物や多細胞生物を分類する。		・質疑応答
11:30	・観察した微小な生物を共有する。		
	昼食		
12:30	■活動C：展示室で豊田の自然環境を調べよう。（展示室）	・進行	・展示を見るポイントの提示
13:20	・展示室で豊田の自然環境について調べる。	・課題設定 ・時間調整	・適宜助言
	移動・休憩		
13:30	■終わりの会（セミナールーム）	・進行	・質疑応答
13:45	・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・評価	

④ 留意点・備考

- ・観察池周辺の状態によって、生息する動植物は変化すると考えられる。そのため、水中の微小な生物が採集できない場合もある。
- ・学習の後、自分の住んでいる地域で、微小な生物を観察ができるように、採集や観察の仕方を学ぶことができる。